

学外活動応援奨学金 イギリス訪問について

中央大学文学部人文社会学科西洋史学専攻 4 年

23E2327010I 岸 佑真

はじめに

私は 2025 年 6 月 28 日～7 月 28 日の約 1 か月間イギリスで、学外活動応援奨学金を利用したうえで教授方へのインタビューや本、文書の収集、博物館への訪問を行った。活動内容は『19 世紀イギリスの政治思想研究』で、メインピックとしてパーマストンであり、日本では好戦的性格が強調されているが、逆に近年のイギリスでの研究では議会での演説や国民に対する演説での言葉と、実際の政策の内容の乖離に注目し、当時のイギリスの国力が衰退へ向かい、できることの内容が制限されている現実を反映させている。

本調査は彼がどのように評価されているのかの再認識やこの乖離はどのように生まれたのか、なぜ政党間で特に忌避されている好戦的性格が政策に取り入れられ、その上選挙で勝利し、政権に入り続けることができたのかを明らかにするためのものである。

私の研究内容は日本での記録や研究者は殆どおらず、一人の研究者が 2, 3 回論文を数ページ記したのみであり、調査している人も少ないため国内で海外の論文を手に入れるのも難しい状況である。そのためこの調査で直接イギリスへ赴き、本や書物を収集することを計画した。



左上：ロンドン市街
右上：Kings road station
左下：イギリスの Pub

訪問先

今回の調査やそこが閉まっている休日などに訪れた場所を挙げていく。

- ・大英図書館
- ・大英博物館
- ・National Archive
- ・Apsley house
- ・ウェリントン将軍騎馬像
- ・ウェリントン・アーチ
- ・ロンドン橋
- ・グリニッジ天文台

大英図書館や National Archive を訪問し、本を借りる際に必要なのは住所証明であるが、住所証明に必要な書類はすべて日本語ではなく、英語のものを用意しなければならない。すべての書類処理において日本でできるものには必要ないが、図書館や文書館などに行くならば、それがなければ、中には行って展示会に行ったり、内部の一部だけ見ることは可能であるが、閲覧室に入り、書物を予約するにもカードを作る必要がある。



上のカードは大英博物館の入館カードである。これを作りには住所証明となるものを持った状態でパソコンへそれを打ち込む、また写真を取るのみで十分である。下のカードは交通系 IC カードであり、イギリスに着いた当日にバスの利用方法を地元も方に来ている際にカードで入れるが、手に持っておくのは危険なのでできればスマホ決済か、IC カードを作ることをおすすめされた。

このように入館カードを作るには住所証明が必要だが、実用性で言えば免許を国際免許にして住所を英語で書いてもらうか、金銭的に言えば銀行や郵便局などで口座情報を下に住所証明書を作成してもらう事が可能である。またなくした時ように印刷を数枚補完しておくことをおすすめする。

上記に訪問し, 調査する中での懸念点

- ・ 食事
- ・ 金銭的な問題
- ・ スリなどの犯罪
- ・ どこまで自分の英語が通じるのか

1, 食事

食事については基本的にフライドチキンやケバブのように安いものを昼に食べるか, そのまま食べずに過ごしたりをし, 逆に朝ごはんや夜ごはらはホテル周りの食料雑貨店で購入したもので自炊をしていた。そのおかげで食費をかなり抑えることができたし, 逆に部屋をお借りしていたホストファミリーの方にイギリス料理の作り方を聞けばそこで会話が生まれもっと楽しい生活ができる。

フライドチキンやフィッシュアンドチップスのような外食は量が多い代わりに料金が高くなり高いが一方で野菜やフルーツはかなり安く, それがメインの食べ物となる。どれほど野菜を食べていたかといえば, ホストファミリーに料理を教えてもらう際にベジタリアンの料理は知らないと言われるほどである。



この写真は自作のシェパードパイ



写真の料理だけでなくすべての食事が美味しく、1 か月続けてイギリス料理をたべても特に飽きたり日本食を食べたいと感じることは特になく、逆に毎日料理をすることを楽しみにして帰宅していた。

その上 Wagamama や itso, Wasabi といった日本食店名や寿司やだけでなく、丸亀, ココイチ など日本と比べると驚くほど高いが高クオリティの日本食を食べることができる。他にも Pub に行った際には一人で飲むだけでなく、近くの人とも会話をしながら一緒に飲む事もできるためチャレンジとして地元の人と会話を楽しむのもこの旅をより楽しくした要因であると考えている。

2, 金銭的な問題

私がイギリスへ渡航したときはポンド円のレートが1 ポンド 195 円～198 円の間で変動していた。それを考慮しながら計算すれば1 か月の滞在でかかった費用は約 54 万円である。しかし 37 万円ほどがパスポートや EST, 飛行機代である。その上ホテルは AirBnB を利用し、11 万円ほどで滞在可能であった。また交通費が2 万円ほどで結局4 万円ほどが食費という内訳であった。



ホテルの部屋

食費の中でも特におさけや外食はかなり高価なためそこをいかに抑えるか、奨学金が決定する前に早めに飛行機を予約してしまうなど他の減額方法も存在するであろう。

3, スリなどの犯罪

よく言われるのは治安の悪い場所ではクレジットをだすな, お金を見せるな, 寝てはダメだと言われるが, 確かに初日にお金が必要だとバス内で言われた際にクレジットしかないといえはお金を出せないと理解して他のところへ行くし, カバンを自分の前側に来るように持つなどすれば特段危険な事に巻き込まれるなどもなければ, 周囲の人々は我々の見方であるという認識があれば, 変な人が寄ってきても助けてといえ多くの人を守ってくれるため変に警戒しすぎず, 目の前の犯罪者個人から逃れることを第一事項として考えればよい。

逆にそれに気づかずにいると「大丈夫？」と一言助け舟を出してくれることも多いため困ったらスマホなどの盗まれる危険性のあるものではなく, 周囲の人々に助けを求める事が重要である。他にも長時間バスに乗っていれば周囲の人と会話をして信頼ができると思う人が入れば寝てしまえば起こしてくれるし, 起こさずとも守ってくれるため警戒しすぎるのも又一个の危険となりえると考え。

4, 自分の英語が通じるのか

私は基本的な会話ならば可能であるが, やはり予想していなかった内容や特定の分野についての深い知識や語彙力も少ないため全てにおいて問題なくできたわけではなく, 勿論大半の会話は推測の混ざってしまうため誤解や, 処理するために時間が必要となってしまう。しかしハンドサインで「待つて」とやれば誰でも待つてくれるし, 聞き取れなかった部分を「what」に置き換えて繰り返せばもう一度いつてくれるだけでなく, ジェスチャーも取り入れてくれる。他にもロンドンの中心に行けばアジア好きや日本好きの人々を多く目にすることがある。実際「去年日本で旅行した」といってバスの中で30分ほどずっと話しっぱなしで, 目的地を過ぎることは多くあった。

はじめはアジア人又はアジア人=中国人と思われていたとしても実際に日本人だと教えられる, そこから質問攻めにされたり, 思い出ばなしで盛り上がることはとても容易い。また「hey Chinese!!」と叫ばれ, 差別されたと思いつながら「No, I'm Japanese」と返したら次の日から毎朝一緒のバス停で10分程度の雑談をする仲になった。

また予想外の出来事にも焦らず, 周りに聞けば知っていれば教えてくれるだけでなく, 一緒に対応してくれるが, 逆にわからなければわからないなりに助けてくれる。他にもジョークでその場を和ませてくれたりと優しい人に巡り会えるため英語が苦手だからや, 今まで海外に行ったことがないなどの不安要素があつても実際は日本と変わらず大半が我々を助けてくれる優しい人であった。

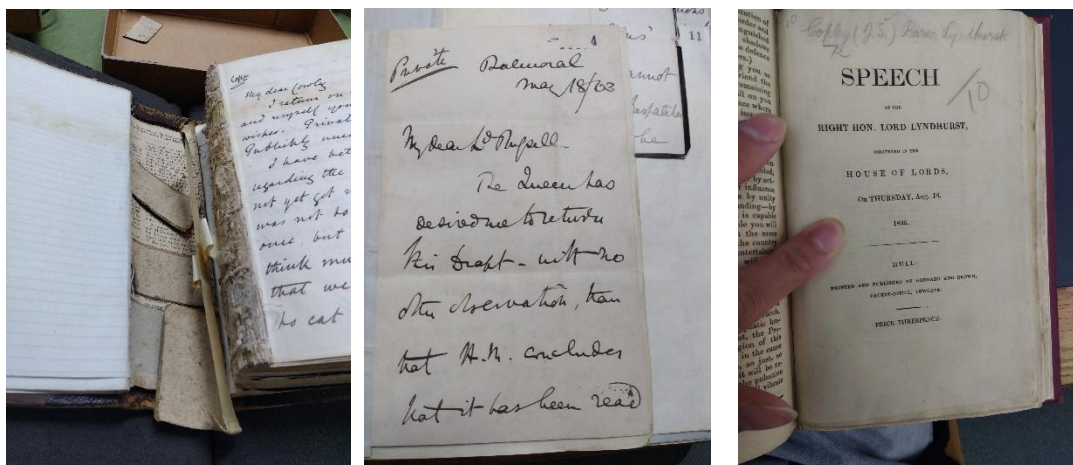
例としては食料雑貨店で割引カードが作れるか聞いたなら様々な人に聞いてどうにか作れないか話してくれたり, 大英図書館の消火器が起動したときに混乱していると「初日でこんなの逆にラッキーじゃん」とジョークを言ってくれたり, 物乞いに絡まれているときに席を交代して庇ってくれたりといった体験があつた。

このようにイギリスではわからなければゆっくり喋ってくれたり、翻訳機を取り出してくれたりとなんとか伝えようとしてくれるため言語はできるにこしたことはないが、そこまで懸念事項として躊躇する必要もないと感じた。

他にもイギリスには白人だけでなく、多くのアラビア系やアフリカ系、アジア系、インド系の人々がおり、全く聞き取れないアクセントを話す人や英語すら話せない人と出会うときがある。その場合はアラビア系やアフリカ系、アジア系はある程度すぐに慣れていいのだが、インド系の英語はいつまで経っても聞き取れなかった。そのときは基本的に隣にいる現地の人を巻き込んでなんと言っているのか説明していただいてなんとか会話を成立させることはできた。このようにイギリスは今人種が混ざり合っており、特定のアクセントのみで通じるほど単純なものではないので、はじめからすべてを聞き取る必要はないし、聞き取れないのを相手のせいになければ、特段失礼に思われることはないと思うので、気軽にスマホや周囲の人に助けを求めるのも悪くない。

調査方法

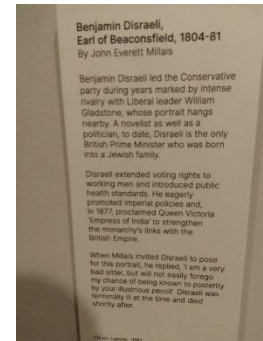
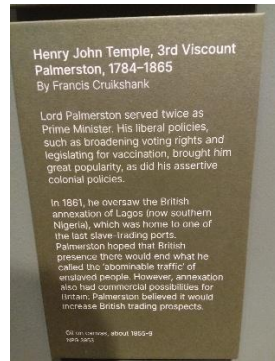
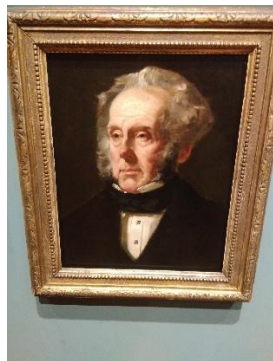
私の調査内容は多くは書籍をPDF化することであった。そのためGoogle driveでカメラを使ったPDF化が可能であるためその機能で収集をした。



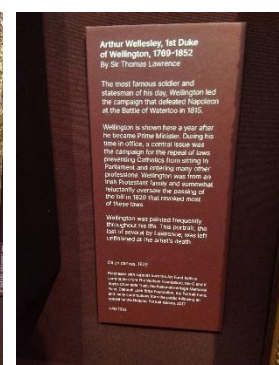
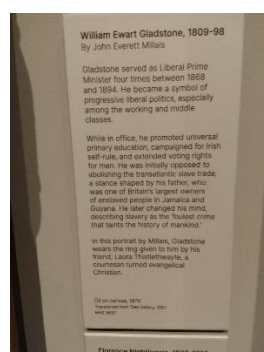
以上のような文献をフレームに合わせ、1ページ毎にそのデータを収集していく地道な作業を行う。これを図書館でそこで読む人も多いが逆にデータとして写真やPDF化をしている人も少なくないため一応確認はしたが問題とならないとされているため写真を取っているため怒られるようなことはない。

これによってすぐさま情報を得てそれが使えるわけではなく、帰国した後に長い時間を得て初めて調査が終了するため自分自身もまだ完結していない。またNational Archiveの手紙などは当時の筆記体が読めるように勉強しなければ使い物にならず、正直に言えば学生がここで情報収集する価値はさほど大きくないと感じる。逆に図書館では多くの情報がタイプされたもので読みやすく、図書館がしまった後にもバスやホテルでの暇つぶしに研究を同時に進行できる。

博物館では当時の社会全体での雰囲気や議会内での雰囲気, 肖像画の中ではどのような評価が当時かつ現代で話されているのかが書かれるため説明文も重要な情報であるが, どのように研究に活かすかは難しく, 実際どのように活用していくかは正直決まっていない。



左上：パーマストンの肖像画
右上：ディズレーリの肖像画
左下：奴隷廃止法案の議会



左：グラッドストンの肖像画
右：ウェントン将軍の肖像画



左：カッスルレーの肖像画
右：ナポレオンの肖像画



左：戦場を除くウェリントン
中央：エジプト
右：ワーテルローの戦い

このように当時の政治家や戦争の風景を絵画として残している物が多く、当時の人相や戦争のリアルを描きだしたものがポートレイトギャラリーやテート・ブリテンには多く展示されている。特に特別展示であった J. M. W. ターナーは直接戦地へ足を運び、その風景を描いた。

調査外の出来事

1, スモールトーク

この奨学金を借りる方々の中にははじめての海外という方が多くいらっしゃるであろうそのため知らない人とのスモールトークが心配となる方もいるかも知れない。スモールトークとは電車やバス, 席などで近くに座っている人に他愛のない話をするものであり, 本当になんでもないような会話をしながら待ち時間を過ごすことが私自身かなり多かったが,

これが一般的に起こり得ることかは周りの方の話を聴く限り怪しいが, なくはないのかも知れない。

そこでどのようなテーマについて話すことが多いのかを知っておけば, 困ることもなければ, その状況自体も楽しめるはずである。そのため少しだけでも私の体験例を書かせていただく。例えばバスの中には席が向かい合っている席がありそこに座れば, 「どこから来たの?」や「あなたって日本人?」と聞かれることがあり, それに「yes」と答えれば, その人の知っている日本文化や, 好きな点についての会話が始まる。特に多いと感じるのは食文化やアニメ, 日本の伝統建築物についてである。その中でも食文化はイギリスでも広く受け入れられており, その割合がずば抜けていると感じている。

他にも時期が被ればイギリスの新聞でも広島原発についての報道がなされることがあるため, 様々な人から「どのように教育の中で説明されたのか」や「今この話を聞いてどのように感じているのか」などを聞かれ, 自分の意思表示だけでもできれば, 気まずくならず楽しめると思う。